

# ディリー・ジーザス・ニュース #241

## イエスのエルサレムへの最後の旅

### マリアはイエスの埋葬に備えて聖油を塗る

ヨハネ12.2-8; マルコ14.3-9 (並行テキスト: マタイ16.6-13)

¶ 14.3 一方 <sup>MT</sup>イエス <sup>M</sup>はベサニーにいた。彼を讃えて晩餐が催された。マルタが給仕し、ラザロもその中にいた。テーブルに寄りかかる <sup>M</sup>彼と <sup>J</sup>らしい病人シモンの家の <sup>M</sup>。

<sup>J</sup>メアリー <sup>M</sup>は、非常に高価な香水が入ったアラバスターの瓶を持って来た。<sup>J</sup>の 約1パINT 純粋なナルドの香油を <sup>M</sup>に注ぎ、壺を割って香油を彼の頭に注ぎました。すると、<sup>J</sup>はイエスの足に香油を塗り、自分の髪の毛で拭った。すると、家は香油の香りで満たされた。

4人組 そこにいた弟子たちの <sup>MT</sup> <sup>M</sup>は互いに憤慨して言いました。「なぜ香水を無駄にするんだ？」

5 弟子の一人、イスカリオテのユダは、後にイエスを裏切ることになるが、こう嘆いた。「なぜこの香油を売って貧しい人々に施さなかったのか。<sup>M</sup>以上 <sup>J</sup>一年分の賃金以上だ！」

彼がそう言ったのは、貧しい人々のことを気遣っていたからではなく、彼が泥棒だったからである。彼は金袋の管理人として、そこに入れられたお金を勝手に使っていたのだった。<sup>M</sup>そして彼らは彼女を厳しく叱責した。

6 イエスはそれを知って彼らに言われた。<sup>M</sup> 「彼女を放つておくように命じる。なぜ彼女に迷惑をかけるのか？彼女は私に素晴らしい、良いことをしてくれたのだ。<sup>J</sup>貧しい人々とは常に一緒にいるでしょう。いつでも彼らを助けてあげてください。でも、いつも私がそばにいるわけではありません。

8 「彼女はできる限りのことをしました。」<sup>J</sup>彼女はこの香水を私の埋葬の日まで取つておくつもりだったのです。<sup>M</sup>彼女は準備として事前に私の体に香水を注いでくれました。

9 真実に言います、どこにいても <sup>MT</sup>これ <sup>M</sup>の福音が世界中に宣べ伝えられるなら、彼女のしたことも彼女の記念として語り継がれるでしょう。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = <sup>MT</sup>、マーク = <sup>M</sup>、ルカ = <sup>L</sup>、ヨハネ = <sup>J</sup>、使徒行伝 = <sup>A</sup>。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、赤いイタリック体はイエスの言葉を示します。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

### コンテキストダイジェスト

位置	エルサレム郊外のベタニア
タイムライン	4月上旬 ( 39ヶ月目 )
イエスの生涯の文脈	第7段階：ペレアにおけるイエスの宣教

## ディリー・ジーザス・ニュース #241

	C. イエスのエルサレムへの最後の旅
タイトル	19. マリア（ラザロの妹）がイエスの埋葬のために事前に香油を塗る

### コメント：

これは聖書の中で最も感動的で深遠な礼拝場面の一つです。だからこそ、様々なレベルで深い意味が込められているのも当然と言えるでしょう。しかし、ここでの解説では、その表面的な部分しか触れることができません。

マタイとマルコは、この物語を受難週の真ん中に位置付けています。ヨハネは、この出来事が過ぎ越しの6日前、受難週の直前に起こったと記しています。私はヨハネが実際の時系列を正確に記述していたと信じています。マタイとマルコは、油注ぎの意味をイエスの死と直接結び付けたかったのです。彼らにとって重要なのは、物語の具体的な時期ではなく、物語自体の意味でした。そのため、彼らはこの出来事を受難週のイエスの死の直前に位置付けたのです。

ヨハネは、年代順のアプローチという異なる方法で、同じ目的を達成しました。マリアが主に甘美な愛の犠牲を捧げたのは、金曜日の夜、つまり礼拝の安息日の始まりでした。ヨハネがこの出来事の年代を正確に記録していたと仮定すると、これは受難週前のイエスの生涯における最後の場面となります。ヨハネがまさにその理由でこの場面を選んだのです。

マリアは、神の御子の死と復活に私たちがどのように敬虔な態度で臨むべきかを示しました。三位一体の観点から見れば、これらは宇宙の歴史において最も重要な出来事であり、私たちも同様であるべきです。

この場面は、割れた瓶の割れ目、部屋中に漂う香水の甘い香り、そして髪で主の足を拭う女性の姿を通して、主がなぜ、そしてどのように十字架につけられたのかという物語を読むための心の準備をさせてくれます。あなたもそうしましょう。

この出来事は、受難週を迎える準備を整えるだけでなく、神の御子イエスの死の目的を前もって思い起こさせてくれます。イエスは、マリアがあの夜に行ったことは福音の宣教の中に常に含まれると述べて、このことを記念されました。これは実際には何を意味するのでしょうか。

イエスがどのように亡くなり、復活したかという福音は、マリアが受難週の前に示したような反応を神が引き起こすように意図されたものです。マリアはベタニアで主の遺体に香油を注いだ時、全身全霊、精神、力、そして財産を尽くして主を愛しました。主が実際に亡くなるのを見る前に、彼女はそうしました。ですから、福音書の中で受難週の物語を読む私たちも、同じように主を愛すべきなのです。

栄光の主の死に神の愛を知りながら、敬虔に主を愛することを拒むことは不可能です。マリアは、神が私たち一人ひとりに見てほしいと願っておられる福音への応答を体現しました。だからこそイエスは、マリアの模範が常に福音の宣教と結びつくようにされたのです。賛美歌「十字架を仰ぎ見る時」の歌詞は、マリアがイエスの死に対して示した美しく模範的な応答を描写しており、私たちもそれに倣うべきです。

## ディリー・ジーザス・ニュース #241

「栄光の君主が亡くなつた素晴らしい十字架眺めるとき、  
わたしの最大の利益も損失とみなし、わたしの誇りすべてを軽蔑します。  
たとえ自然界のすべてが私のものであつたとしても、それはあまりに小さな贈り物です。  
こんなにも素晴らしく、こんなにも神聖な愛は、私の命、私の魂、私のすべてを要求するのです。」

応用：

以前、ヨハネがイエスの宣教が栄光に満ちた弟子作りの週から始まつたと指摘したことについて、私たちはすでに述べました（ヨハネ1:19-2:11）。イエスの地上での生涯は、歴史上最も重要な週で終わりました。受難週の各日には、それぞれ独自の内容がありました。福音書記者たちは、私たちがその日を一つ一つ経験し、一つ一つの言葉と行いに込められた苦悩と歡喜を体験できるように、受難週を区切つたのです。「DAILY JESUS NEWS」で、イエスと共に受難週を再び体験するには、100日以上かかるでしょう。

人生でこれまでにないほど受難週に集中する準備はできていますか？

あなたの態度は畏敬の念や崇拜に表れていますか？それはつまり、愛が新たな方法であなたの従順さを促すということです。

今日、神への従順さをもっと完全に表すにはどうすればよいでしょうか。

あなたに対する神の御心の善良さと完全さを信じているからこそ、喜びと感謝をもってそうすることができるように祈つてください。